

プロフェッショナルのためのニュースレター「ドミノ」

DOMINO

Bayer Pest Management

2007. 3

VOL. 3

●アメリカ  業界情報

2006 Pest World 講演

●検 証

ハチクサンのドミノ効果を
放射性同位元素 (^{14}C) により確認

●誌上セミナー

最近のシックハウス訴訟判決に係る説明会

●製品情報

害虫駆除専門業者用ゴキブリ駆除用ベイトジェル

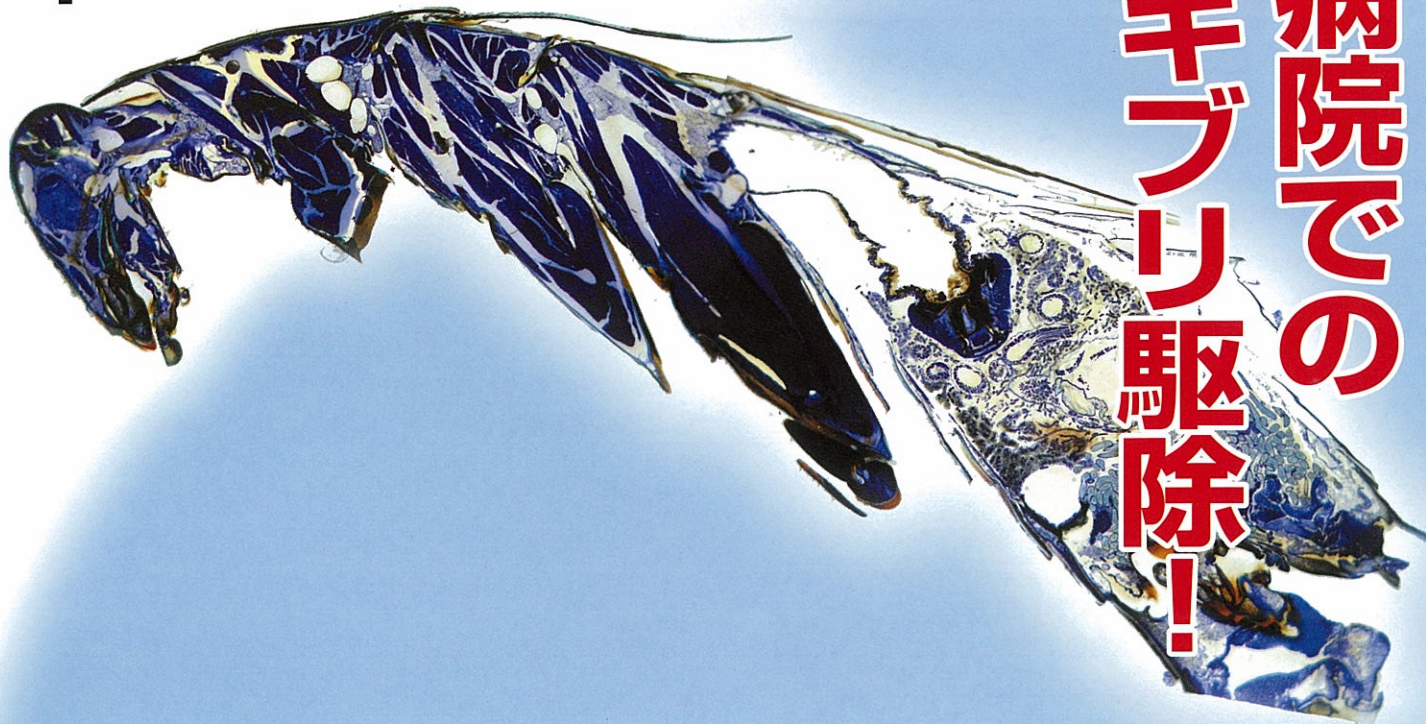
マックスフォース
ジェルK 医薬品

シロアリ駆除剤

 **アジェンダ** [®] **MC** **新発売**

巻頭特集

賃貸集合住宅・病院での
IPM実践でゴキブリ駆除!



ゴキブリの切片染色写真(東京工業大学・東工大ScienceTechno提供)



Bayer Environmental Science

複数のビジネスチャンスが 賃貸集合住宅・病院での

健康と安全

防除会社の人々は、公衆衛生を守るという重要な役目を担っているといえるでしょう！その意味においては、害虫防除の必要性および害虫発生に関連する安全性を、病院・雑居ビル・集合住宅の管理者に知らしめることも重要な業務のひとつだと考えられます。

多くの害虫はバクテリアおよびウイルスによる感染症を媒介し、喘息に代表される呼吸器関連の病因となっています。ゴキブリはアレルギー特に子供のアレルギーの原因といわれる物質をあとに残していくことを、殆どの人が知りません。2005年発行の“アレルギーと臨床免疫学”会誌によると、ボストン・シカゴ・ダラス・ニューヨーク市・シアトル・ツーソンなどの大都会でのアレルギー度の調査結果では、ゴキブリの出すアレルギー源はホコリダニとかペットがだすアレルギー源よりも子供や老人の喘息をより激しくする、と報告しています。

アメリカ環境保護省 (EPA) によると

就学年齢に達した子供の13人に一人は喘息持ちであり、この率は就学前の子供では他の年齢層よりも上がっているとの事です。喘息は慢性的であるため学校を欠席する原因の代表であり、この傾向は都市中心部に多く見られます。

わが国でも、文部科学省が2006年度に実施した学校保健統計調査によれば、喘息を患っている幼稚園児や小中校生の割合が10年前に比べ2倍以上に増加しています。

ニューヨーク市での高齢の喘息患者の調査結果によるとその約50%の患者がゴキブリ由来であり、通気が悪いことによるものが断然多いという結果でした。

このような結果から言えることは、病院・集合住宅・ビルでのアレルギー起因物質であるゴキブリを駆除することはその住人の健康を守ることだ、といえます。

害虫駆除法の確立を！

防除業に携わるPMPの皆さんは集合住宅などの業界にこれらの問題を知らしめるべきであり、ゴキブリを駆除しアレルギーを除去することは彼等の社会的責任でもあり、そこにPMPの活躍する場があります。

ゴキブリによる健康被害にくわえ、ハエ・アリ・シロアリなども20階建てのビルでさえみられます。その理由は、ゴミの落とし口・複雑に入り組んだダクト・パイプなどが、これら害虫の棲家となっているからです。また、集合住宅の各戸はそれぞれにメンテおよび清潔さで差があるので、害虫が繁殖しやすく各戸を次々と渡り歩きます。

イエバエによりさまざまな病気（腸チフス熱、結膜炎、結核症、下痢）が蔓延し、ネズミは200にもおよぶヒトの病原を運び・広げ、ハトの糞により三種類の病気が発生することはよく知られていることです。

このような現実を踏まえた害虫駆除法を確立し提案すべきでしょう。

病院でのIPM実践

病院での害虫防除はホテル、学校のそれと同じで薬剤の誤使用及び害虫から感受性の高い患者・人を守ることです。

病院には入院患者以外にもホテルと同様、多種多様な人が出入りします。病院は感染症に特に注意していますが、それは人から人への感染で、害虫から人への潜在的感染には関心を払っていません。病院へ来る人とか患者は、病院は清潔であり消毒が行き届いていると信じていますので、害虫は特に問題視されます。一匹の虫でも患者が見つけたら大騒ぎになりますし、病院の信頼を失うことにもつながるでしょう。ある虫は無害でも、ある虫は実に危険でありますので、病院での害虫駆除業務は、即座の対応と徹底した管理サービスが必要とされる非常に苦勞の多いサービスおよび公衆衛生業務です。

NPMA（全米害虫防除業協会）によると、様々な病気（腸チフス熱、結膜炎、結核症、下痢）の蔓延にイエバエが介在している、また、ネズミは200にも及ぶヒトの病原を運び広げる

一つ屋根の下に! IPM実践でゴキブリ駆除!

皆の嫌われ者?ゴキブリ!

世界で3,500種以上、北米在来種で69種、日本産として52種に分類されているゴキブリは、そのほとんどが人間の生活環境と離れた場所でひっそりと生息し、「森の掃除屋」として森の資源リサイクルに組み込まれ、自然界に大きな貢献をしています。太古の時代から、ほんの数種類のゴキブリが人間の生活環境に紛れ込み、人が好む暖かさ、水、食料を共有し、住空間の隙間、裂け目、割れ目をシェルターとして利用することにより好むと好まざるに拘わらず人と共生してきました。

衛生害虫としてのゴキブリは、存在感そのものが不快、雑食性であるので嫌い、脂ぎって臭いがあるので嫌い、逃げ足が早いので嫌い、見るのも触るのも嫌い…という精神衛生上の健康被害の他、ウイルス、病原菌、黴、病原体の物理的「運び屋」となって健康被害を生じたり、食中毒の主因、糞、表皮、脱皮殻による食品への異物混入、包装資材や容器の食害、喘息の病因になるアレルゲンとして感作するなど多くの問題を起こす可能性があります。飲食施設においては、大腸菌症やサルモネラ症が代表的な事故に至ります。

一方、医学的観点からの問題提起があり、アレルギーもゴキブリが関与しているという報告があります。表皮、脱皮殻などの物理的異物のほか、アレルゲンとしてアレルギーの引き金となる訳です。

住家性として人間に被害を与えるのは8種程度であり、建築物内や飲食施設ではチャバネゴキブリが主な問題となります。

バイエルクロップサイエンスが提唱する passive treatment program は、医薬品「マックスフォースジェルK」を使い、ゴキブリの行動、習性をうまく利用して、「ドミノ効果」によりゴキブリを「薬剤の運び屋」として作用させ、少量の薬剤を手の届かない生息場所にまで届ける、IPMにかかったレスケミカルの先進技術です。

とのことです。ニューヨーク市健康・衛生局は、ハトの糞により三種類の病気が発生すると報告していますし、ゴキブリ由来のアレルギー源は、特に子供や老人の喘息症状を悪化させることで知られています。

病院では、免疫力が弱い老人や子供から、手術を終えたばかりの患者まで幅広い人たちが害虫駆除剤を含む全ての化学物質への暴露に注意を払っています。

だれもが、病院自体が一般に市販されている殺虫剤などを使っているとは思いたくありません。しかし、専門の防除業者が病院での仕事をするときには、上記のことを十分に理解した上で、明確で特有のIPMプログラムを作るべきでしょう。

ゴキブリ駆除剤

今がゴキブリ駆除のベストシーズン!

今年も医薬品「マックスフォース®ジェルK」

都内のドイツレストランで実施した「マックスフォースジェルK」の暫定試験について、ここ約1ヶ月間の推移の一部を報告します。

現場は厨房が約6㎡、客席・カウンターが約15㎡。事前調査でゴキブリ指数は1以下とゴキブリの生息が少ない現場です。それでもゴキブリは問題となります。サニテーションは非常によく、床も終業時に水洗いされ、調理くずの片づけも行われています。厨房のスタッフから毎週情報を入手でき、ゴキブリの動向をよく把握できました。

7月13日にトラップをしかけて調査を始め、ほぼ1週間ごとに現場で観察を行いました。

2回目の調査時に「マックスフォースジェルK」を8g施工。その後1週間ごとにトラップ調査を継続。ゴキブリ指数は0.1以下になり、8月8日のお盆前の調査ではゴキブリ指数が0.01に低下しました。

医薬品「マックスフォースジェルK」でゴキブリ指数の低い現場でもさらに指数が落とせます。厨房スタッフからはゴキブリが減ったという感想を聞きました。





昨年10月、米国テキサス州で開催され 興味深い最新情報、注目情報がレポー

建築技術がおよぼすシロアリ防除への影響

基礎部分から放射されるエネルギーのロスが全体の20～25%に相当するという熱効率の悪さを改善するため、USでも外断熱への期待が増えており、最近になって防蟻剤を封入した断熱材が開発された。

1999年、外断熱フォームはアメリカ南部での激しいシロアリによる加害が露呈し、当地における建築基準委員会やIRC、ICC、IBCなどによってその使用が禁止されたが、2006年のIRC Codeで基準が改定され、ICC評価サービス社によるガイドライン(EQ239)を通過する断熱フォーム材であればその使用が認められるようになった。しかし、断熱材メーカーとしては、防蟻剤封入の断熱フォーム単体はバリアシステムではないことから、専門業者によるシロアリ予防(駆除)は別途必要と説明していた。当地でのPMPは過去の経験から未だ防蟻剤封入断熱材の有効性に懐疑的なのか、質疑では防蟻保障の問題についての整理が求められていた。

(我々としては、外断熱材に防蟻剤をいれずとも、新築現場でアジェンダあるいはハチクサンで土壌の外周処理をし、その後従来の外断熱材を用いるのも一考でないかと考えています。)

ルイジアナでのイエシロアリとハリケーン “アリの一穴”

ルイジアナのフレンチクォーターでの甚大なシロアリ被害に90年代初期から取り組み、ベイト剤戦略、ベイト剤＋非忌避剤による戦略によりかなりの被害を抑え

ることができたことを報告した。

しかしながら、昨年カトリーナとリタによる続けざまのハリケーンの上陸により、ミシシッピ川の堤防が決壊し、当地区がほぼ全壊になった理由としてイエシロアリの存在を指摘した。演者いわく、川や線路伝いに設置された堤防や側壁のコンクリートの隙間にはめ込む継ぎ目には、さとうきびの繊維を混ぜ込んだラバー製品が使われており、ここに広くイエシロアリが生息していることを発見した。線路やミシシッピ川沿いの遠大な距離のシロアリ駆除に対してベイト剤や非忌避剤で対応することはコスト的にも天文学的な数字になるため現実的でないが、IPMの観点から将来的にも可能性のある植物を使った戦略について話題提供が行われた。

ベチベル草(Vetiver)の根は、2ヶ月に150cm以上も伸び、しっかりした根圏の発達により堤防の強化に役立つだけでなく、水の浄化にも役立つ。また、その根から滲出する油は害虫やシロア리를忌避させることがわかっているため、ベイト剤＋非忌避剤による防除戦略にこの植物戦略を組み合わせることで効果的で効率的な防除戦略の候補になり得るであろうと説明された。

最後に紀元前の中国の諺を引用しながら「ひとつのシロアリのコロニーが千里の堤防も決壊させる——蟻の一穴!」で締められた。

薬剤処理による効果のミステリーを説明するシロアリの生態に関する新しい知見

USに生息するシロアリ種のDNA解析から4種の*Reticulitermes*(ヤマトの類)と1種の*Coptotermes*(イエシロの類)が偏在していることを報告した。さらに、

- 1.シロアリの生態、カースト制、foragingとswarming behaviorについて気温・湿度との関係
- 2.シロアリの生息密度マネジメントに関する手法として液剤処理に必要な情報としての化学物質の分解速度、防除に必要な各薬剤の最低濃度について
- 3.フィプロニル剤による(a)外周処理のみ、(b)外



【2006 Pest World 講演内容】編

たNPMAにおいてトされました。

周十内周の部分処理、(c) 倍量での外周処理のみ、での駆除効果について32件の実際の家屋を用いた試験結果の紹介、

4.ベイト処理の生物的コンセプトおよびニッチ理論と(駆除成功の)確率論、

5.バリア施工(化学物質、断熱材、アルミメッシュなど)でのシロアリの生態、

など基本から応用まで展開する公演内容であった。

特に3.のフィプロニル剤による外周処理の試験結果では、(b)および(c)では6年間全く再発はみられていないこと、(a)については6ヶ月目に再発部分へのスポット処理でその後6年間再発がみられていない経緯の報告が行われた。

4.ベイト処理に関しては、脱皮を終了した成虫には効果がないため完全な駆除はできないことから、どの



ベイト剤

を使っても80～

90%の防除しかできないこと、ベイト剤を取り除くと密度の回復が見られることから、「ベイト処理で全体をコントロールすることは出来ない」とする理論を展開した。

シロアリが一生のうちにどの程度の活動をしているのか詳しく調べてみると、一生のうち約75%はほぼ何もせずに過ごしており、約15%が餌を食べる時間、約4%が穴を掘っている時間、残りがグルーミングしている時間だということが分かった(ただしこれも穴を掘るグループとそうでないグループでは多少数字に変動がある)。

関連情報

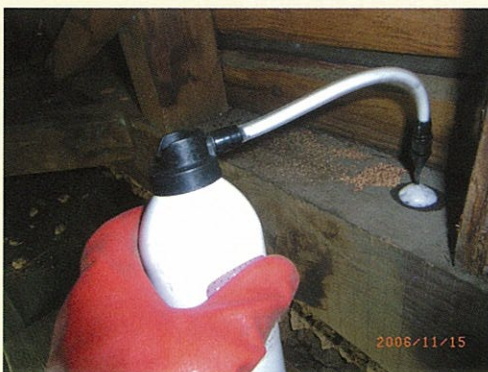
アメリカカンザイシロアリ四国上陸!

ついに四国でアメリカカンザイシロアリが発見されました。

去る平成18年10月11日、知り合いより、「羽アリらしき虫が出現しているので調査してほしい」との依頼があり、現地確認したところ、今まで見たことのない黒っぽい有翅虫を発見。まさかと思いい0匹程度捕獲し、持ち帰り専門家に確認

してもらったところ、「アメリカカンザイシロアリ」とであると同定されました。

発見現場は四国・愛媛県松山市のほぼ中央部分で、築約40年の木造住宅であり、アジェンダフォームのスポット処理で駆除工事を実施し、現在経過観察中です。



(提供:友清白蟻)



ハチクサンのドミノ効果を 放射性同位元素 (^{14}C) により確認

バイエルとノースカロライナ州立大学との共同研究

同一コロニーのシロアリは全て同じ遺伝子DNAを持っていることから、バイエルエンバイロサイエンスUSは、ノースカロライナ州立大学との共同研究として、ハチクサンのドミノ効果を放射性同位元素 (^{14}C) により試験し確認しました。

この試験は、11棟(平均敷地面積約1,400㎡)の被験家屋におけるシロアリ(*Reticulitermes flavipes*、ヤマトの類)のコロニーの数と活動範囲を、マークリキャプチャー法により捕獲した職蟻のDNA分析で調査・同定し、その後放射性同位元素を用いてハチクサンの薬剤処理を行い、経時的に各モニタリングデバイス(MD)の職蟻を採取し、ハチクサン (^{14}C) の伝播効果と防除効果を経時的に確認しました。

事前調査により、被験物件の居住

区内(家屋及び庭)には平均12個のコロニーが発見されたましたが、活動範囲はコロニー毎に大きく異なっており、屋内と庭に生息していたり、屋内から敷地外にまで及んでいるコロニーもありました。活動範囲の割合は図1の通りであり、敷地内に約64%、敷地外にまで及んだコロニーが約36%存在しました。

これらの物件へハチクサン (^{14}C) を処理(基礎内周・外周への処理)し、各MDの活動状況を調べた結果――

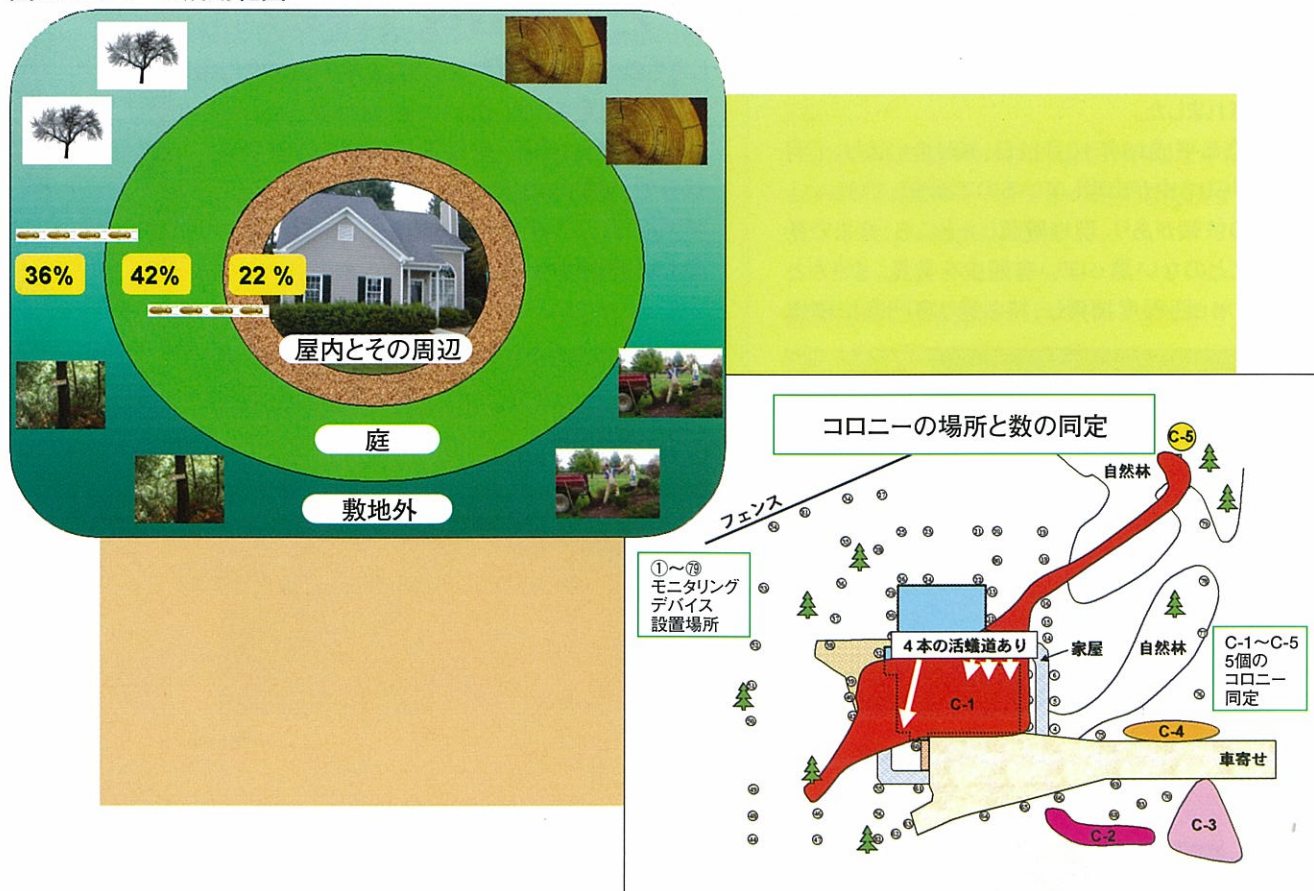
- 家屋内のMDは処理後平均して26日で全て不活性となった。
- 屋外(庭)のMDもハチクサンのドミノ効果で不活性となった(約1ヶ月で98%以上)。
- 居住区外に見られたシロアリの活性も、薬剤処理後に見られなくなった。



これらの結果から、ハチクサンによる駆除及び予防土壌処理は、家屋へ加害しているコロニーだけではなく、処理家屋周辺のシロアリ密度を抑制する事も可能であり、今回の共同研究においてもハチクサンの高いドミノ効果が、DNA分析や放射性同位元素 (^{14}C) などの近代的な手法によって再確認されました。

注) アメリカでのハチクサンの商品名はプレミス®といひます。

図1:コロニーの活動範囲



建築構造の精査が不十分だったため、 薬剤がバイオリン教室へ流入！

クレーム処理ファイル

File No. ③

駆除工事において、床下が転ばし根太で直接の薬剤処理が出来なかったため、ハチクサンFLを外壁より壁体内へ注入してそのまま床下へ薬剤を流そうと考え実行しました。注入処理開始後しばらくして、施主が室内に薬液が流入しているのに気づき工事を中断しましたが、すでに二部屋にわたって水浸しになってしまいました。

原因は、床のフローリングの上から壁が立ち上がっていたためで、結果として処理液がバイオリン教室のフローリングへも流れ出て、臭いもするし置いてあった衣類も汚すし、施主からは「安全であるという分析結果をだせ」との要求もあり、大変難儀しました。

その後、**施主への説明、室内気中濃度分析、洗浄、フローリング拭き取り、キッチンペーパーからの溶出液分析、汚染された衣類の濃度分析などを実施**。その結果、室内大気中では検出限界以下でしたが、衣類・キッチンペーパーからはやや高濃度のイミダクロプリドが検出されました。

施工会社は、フローリングの張替え・衣類の弁償をせざるをえませんでした。対応が良かったため、その施主より後日知り合いの物件を紹介されました。

今回の事例を振り返ると、次のような教訓を得ることができます。

- ◆事前調査では、建築構造そのものの精査を必ず行い、作業中の憶測や推測、慣れなどにより目視を無視する事は、決してしてはならない。
- ◆トラブル後の初動対応を万全に行う。初動対応がきちんとできれば、顧客との信頼関係を強める事にもつながる。

トラブルやクレームを出さないための事前の万全な準備が何より重要な事は言うまでもありません。その上で、もしも問題が発生してもそのピンチをいかにしてチャンスにきりかえられるか？これもまた重要だと言えます。社員教育がこれからますます重要になってくるのではないのでしょうか。

まずは
万全な事前調査。
もしも問題が
発生したら
迅速な初動対応を！



へえ～
知らなかった!!

なるほどひとくすメモ 「アリ社会は女性上位！」

アリの世界は雌で動かされており、雄は生殖活動繁殖にのみ有用…。人間社会とあまり変わらぬではないかという御仁もおいででしょうが大きな違いがあります。

ほとんどのアリのコロニーの始まりは交尾のために古いコロニーから女王が飛び立つことから起り、ある種族のアリは再生殖用の羽アリを作りその中のわずかが交尾・コロニーの構成へと進みます。交尾後、女王は

羽根を落として産卵のために巣を掘るとか安全な場所を確保します。卵は2～6週で孵化し幼虫となり、数週間から数ヶ月かけて蛹となります。

女王は第一世代を創り巣を守り、その後の世代は不妊のメスの働きアリがこれらすべての役割を果たします。彼らは女王のグルーミングをしコロニーへの給餌および保護の役割を担い、女王は産卵に徹するのです。

ご愛用者の 声

ジャマ物は消せ!

スナックバー「EX」(東京都港区六本木)

六本木にお店を構えて30年、本格ドイツ料理とビールを楽しんでいただいております。

飲食店にはあの“小動物”は厄介な存在! 時間と場所とか関係なく姿を現してくれます。その対策として害虫防除業者を何社か利用してみましたが、たいした成果は得られませんでした。

そんな折、“バイエル・グループ”に勤めるドイツ人から知り合いの業者を紹介してもらいました。もちろんその業者はバイエルの製品を使っていることは当時から知ってはいましたが、薬のことを聞いてもどうせ判りませんので担当者にかかせっきりでした。2~3ヶ月位経った頃から段々にそのオジャマ虫を目にすることがなくなり半年後には気にすることもなくなりました。現在では時折見かける程度(このくらいは仕方がない

かと思っています)。これも長年お付き合いしている防除業者のおかげだと思っています。

業者さんの説明によると、今まで液体の殺虫剤を使用していた様でしたが、数年前から「マックスフォ



ースジェルK」という商品名のジェル剤と呼ばれるものに変えたとのことでした。確かに、その頃から、おジャマ虫を見かける間隔は長くなった気がします。なにより、消毒後の食器洗いの手間が無くなった事が労力、コスト面で非常に助かっています。

私は、いくら良く効く薬でも、使い方を誤れば、薬の効果は十分に導き出せないと思っています。その点、当店が契約している業者さんは、薬の特徴や害虫の生態を熟知しており、ちょうど、医者が患者に対し普段の食生活や生活習慣を指導するのと同じように、お客である私共にも、日常のゴキブリ予防策についても指導してくれます。毒餌設置中はエアゾール殺虫剤を使用してはいけないことや、日常の掃除のポイント、ごみの後始末、食品保管の仕方など、ゴキブリを誘発するさまざまな要因があり、その要因を断ち切ることが最終的にはゴキブリの発生を防止できることを教えてくれました。薬の難しい説明よりも、大変、役立っています。

飲食店経営の仲間うちでは、契約単価の関係から害虫防除業者を切り替えたという話をよく耳にしますが、当店は今のところ、他社に切り替える考えは全くありません。

“おジャマ虫よ、さようなら!”

Top News

新製品&ニュース

アジェンダ® MC 新発売!!

フィプロニルをカプセルに包み、より安全により使用場面をふやし(耐アルカリにも優れています)、より伝播性能を高めて新登場です!

NEW

※日本しろあり対策協会
および日本木材保存
協会の認定済みです。



バイエルしろありセミナー 開催します!!

2年ぶり

開催日程は、3月5日東京、6日名古屋、7日大阪、
8日福岡、9日広島、13日高松、15日仙台です!

いずれの会場も午後1時受付開始、1時半スタートです。

販売支援ツールのご用命は販売代理店まで。

- <「ジェルの達人」シリーズ>「ゴキブリのIPM防除(都市型PCOのためのレスケミカルIPM施工の手順)」/「ゴキブリのIPM防除(簡易版)」/「ジェルの達人」シリーズを穴を開けずに保管できる合本バインダ
- 「マックスフォース施工」を要約したフライヤー(小型チラシ)
※一般飲食店にお勧めしていただく営業活動のお役にたつ依頼主(店主、店長)向けに特長を要約しました。
- ご好評の「アリのポスター」(若干在庫あり)

皆様の声をお聞かせ下さい

バイエルはこれからも
皆様のお役に立てる商品開発と
情報発信に努めてまいります。

- 当ニュースレターは年2回の発行予定です。
- お手数ですが同封のアンケートをご返送下さい。
- 作業の安全のため、防護メガネ、マスク、手袋を必ず着用して下さい。

最近のシックハウス訴訟判決に係る説明会

(講演要旨)

本稿は、平成18年9月22日(金)に「ちよだプラットホームスクエア」で行なわれた弁護士法人匠法律事務所/秋野卓生弁護士の講演を、同弁護士のご了解をいただき、要約したものです。従って、本稿に関する文責は全て編集部にあります。
(バイエル クロップサイエンス(株) エンパイロサイエンス事業本部 編集部)



シックハウス訴訟とは?

シックハウスの建設業者やその販売業者の責任を追及する訴訟を指します。この訴訟は、大きく以下の2つの類型に分けることができます。

- (1) 住居の室内空気汚染によって健康被害が発生する場合で、これは実際の健康被害に対する保護の必要性が争われる。
- (2) 「健康住宅」をセールスポイントとする住宅に室内空気汚染を生じさせる建材を使用した場合で、これは債務不履行、即ち契約解除・損害賠償請求の可能性が争われることとなる。

過去の判例

平成10年2月に出された最初の判決以降9判例が存在しますが、以下にその内の数例を簡単に紹介します。

- (1) 平成15年5月20日 東京地裁判決
化学物質過敏症罹患とクレオソート油塗布との因果関係は認定するものの、化学物質過敏症罹患は同油缶上の注意書きによる予見の範囲を超えるものとして、施工業者の過失は否定された。
- (2) 平成16年3月17日 東京地裁判決
化学物質過敏症罹患と施工との因果関係は認定するものの、施工業者の過失は否認された。施工後20日の時点では、総揮発性有機化合物量(TOVC室内濃度値)が厚生労働省の指針値(平成12年12月設定)を超えてはいなかったものの、施工業者に対し、施工方法への配慮及び化学物質過敏症予防対策義務が明確に判示された。
- (3) 平成17年4月28日 神戸地裁判決
被告によるシロアリ駆除剤フェノブカルブ飛散実験の結果を踏まえたアピールにより健康被害と施工との因

果関係が否定された。メーカーによる立証実験実施が増加する契機となった判決。

(4) 平成17年12月5日 東京地裁判決

「環境物質対策基準に適合した住宅」と表示・販売されたマンションが、厚生労働省指針値以上のホルムアルデヒドの放散されるシックハウスであったことに対して、瑕疵担保責任に基づく、原告側の契約解除が認められた。但し、シックハウスによる健康被害についての損害賠償は認められていない。

(5) 平成18年8月 東京地裁判決

熱による電気ストーブ樹脂からの化学物質発生は、予見可能であり予見義務があるとして、後遺障害14級と認定し遺失利益を含め、750万円の支払が被告に命じられたもので、被告に損害賠償を命じた初の判例である。尚 この判決に当たっての化学物質過敏症の診断基準は、北里大学研究所/坂部医師によるものである。

所 見

- (1) 施工と健康被害(化学物質過敏症)との因果関係は、立証次第で認められる。過去、化学物質過敏症を否定した判例は存在しない。従って、今後のシックハウス訴訟においては、業者側の「過失」の有無の認定が主要な争点となる。即ち、販売・施工業者の化学物質発生の予見可能性に基づく予見義務、その防止対策の有無及び身体・生命に及ぼす化学物質の影響に関する一般的な危惧感への注意義務が争われることとなる。
- (2) 前述の坂部医師による判断基準が、新たな認定基準が採用されるまで、化学物質過敏症認定の重要な指針となる。
- (3) 慢性的症状に対しては、遺失利益への補償が求められる。(一時的症状には慰謝料支払いが通常である。) また、後遺障害14級が、シックハウス症候の目安となる。